

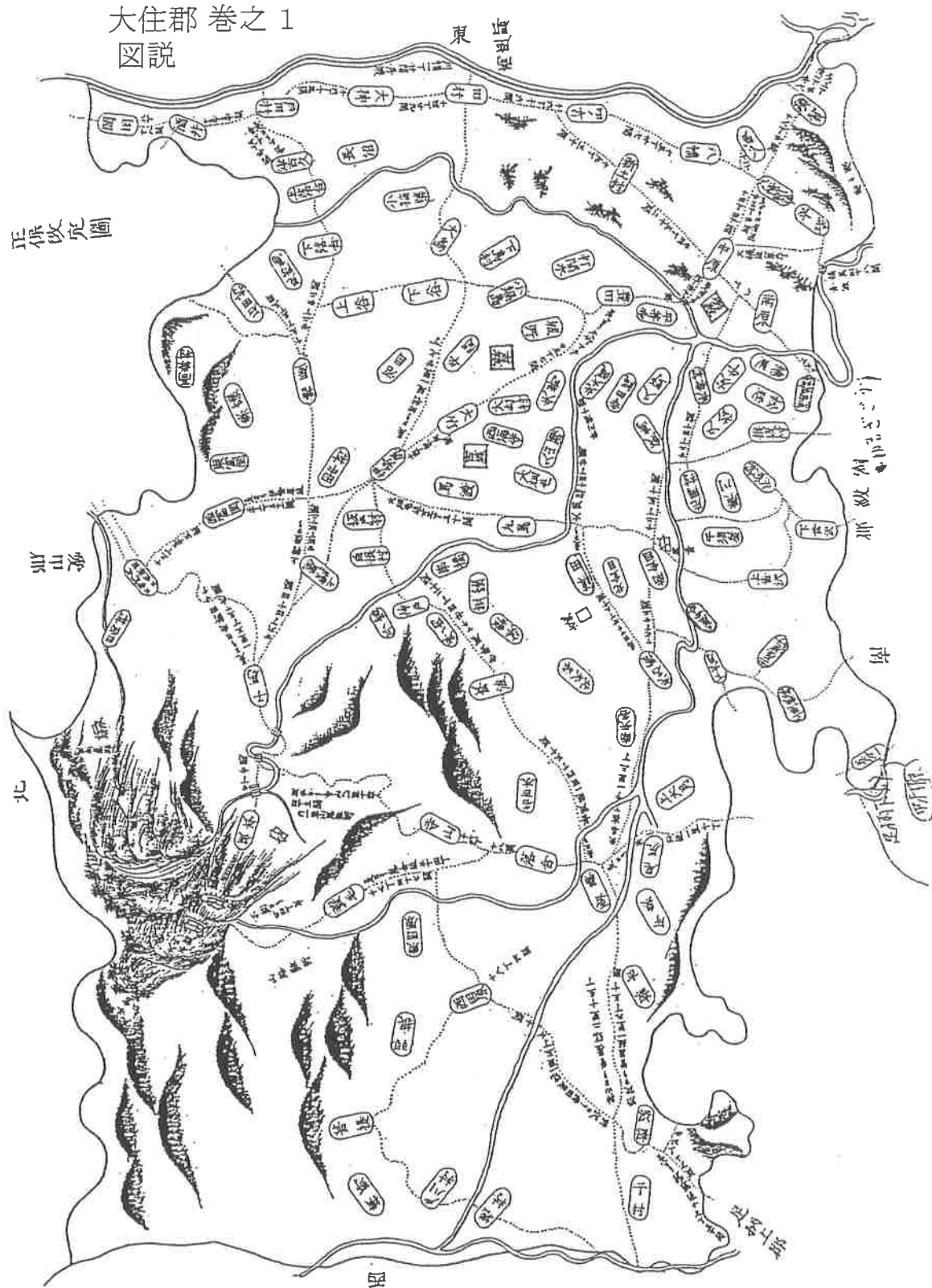
(9) 新編相模国風土記稿 [抜粹]

卷之 42

村里部

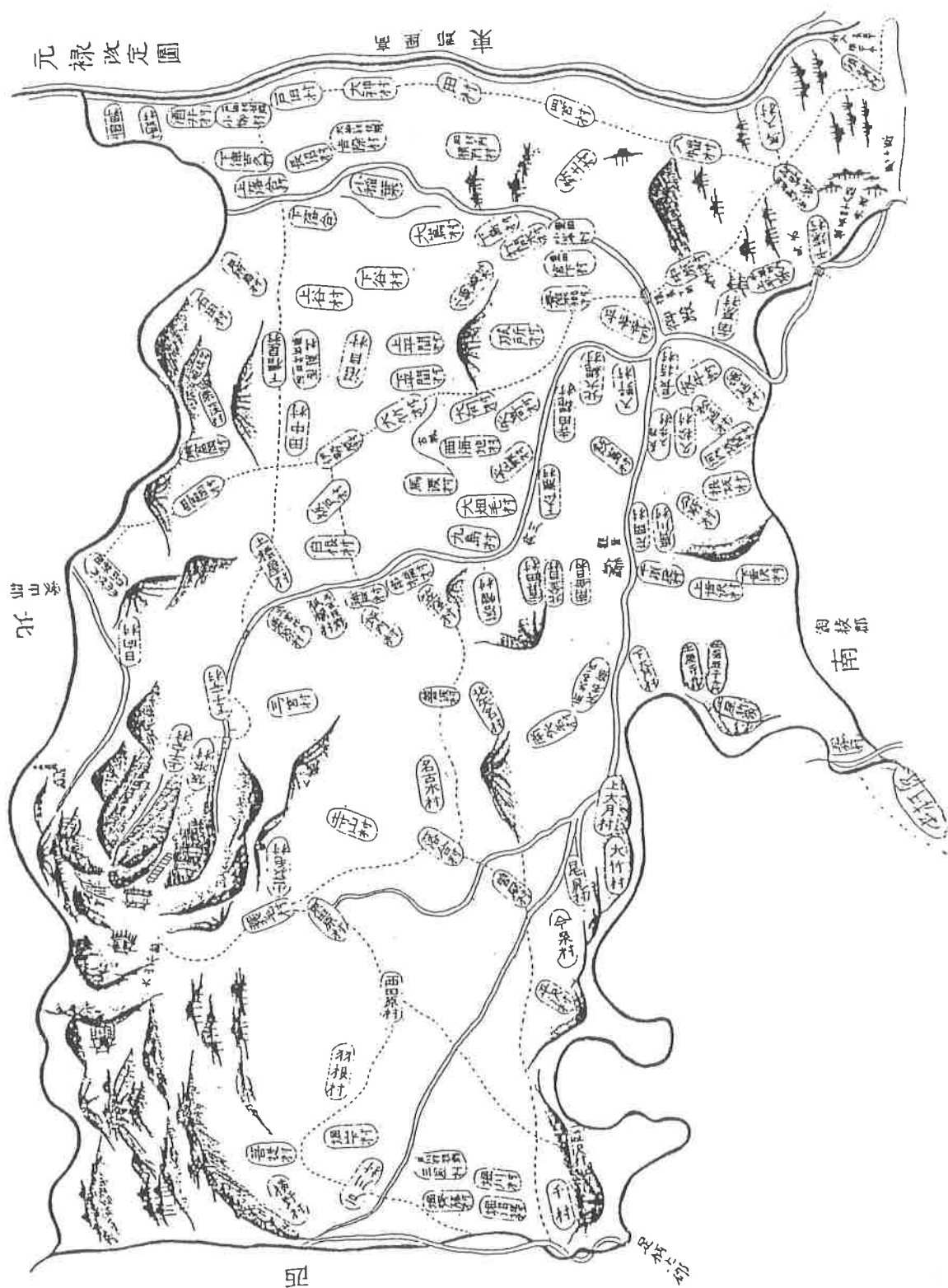
大住郡 卷之 1

圖說



元禄改定圖

坂田風量



This is a detailed black and white map of the Kanto Plain (關東平原) in Japan. The map shows the extensive Tone River (利根川) and Arakawa River (荒川) systems flowing through the region. Major cities and towns are labeled, including Maebashi (前橋), Tokyo (東京), and Utsunomiya (宇都宮). The map also depicts the surrounding mountainous terrain, particularly the Tama Mountains (多摩山地) to the west and the Sagami Mountains (相模山地) to the south. The title '關東平原圖' is prominently displayed at the top center.

土屋郷には中村庄司宗平の三男土屋三郎宗遠始て居住（安ずるに東鑑に治承4年10月23日、頼朝勲功の賞を行ひし時、本領を安堵し、或は新恩に浴せし者の内宗遠の名あり。また建久2年4月27日、当国生沢直下神社主清包の訴に因て、宗遠を召決せらる条に、地頭土屋三郎と記せり。生沢は洵綾郡の属にて、土屋村の按地なり。）せしより、子孫代々領せしなり。

後世其地を土屋惣領分、同庶子分なりと唱えしは、（元禄の頃迄、各別村なりしか。今は合して一村となり、其唱は小名となれり。）彼子孫に至り、嫡庶の領を分ち唱えし遺名なり。

（ 略 ）

今所唱合郷 24 --- 土屋 （津知也）

今所唱合庄 5 ---

波多野庄 ・ 糟谷庄 ・ 八幡庄 ・ 豊田庄 ・ 土屋庄

卷之49

村里部

大住郡 卷之8

糟屋庄

土屋村 （津千也牟良）

土屋郷に属す。此地名は古くより聞えて。往昔中村庄司宗平の子。土屋弥三郎宗遠。当所を領し。在名を以て氏とす。（寛永土屋系譜曰。伝えいう。平氏の後胤。中村宗平が子。宗遠の後なり。宗遠相州土屋を領する故に。始て土屋と号す。其後昌遠に至り。武田信虎に従い。浪人となり。京師に赴くとき。土屋の系図を。先祖の菩提所。豆州大平の郷真光院におさむ。其後かの院滅亡に及とき。系譜紛失す。故に今過去帳にしるす所を。考えてこれを載す。按ずるに。宗遠は村内芳盛寺を開基す。）東鑑に宗遠を始め。土屋氏の者。多く見えたり。（土屋弥三郎完光。同新三郎光時。同大学権介義清。同弥次郎忠光。同兵衛尉宗長。同次郎時村。同七郎左衛門尉行頼。同新兵衛。同次郎。同三郎。同四郎。同左衛門二郎。同新左衛門尉等にて。此内宗光は。宗遠の子。光時は宗光の子。義清は中村庄司宗平外孫なり。詳なる事は人物に出す。）皆子孫氏族等なるべし。昔当所に住せし法師。高年に及て。將軍実朝に謁せし事あり。（金槐集欄で記するため略）古は土屋寺分・同惣領分・同庶子分と。三村に分てり。（北条役帳。及び正保元禄国図。皆三村とす。）今は合て一村とす。（年代詳ならず。）又古五分一村は。当村の属地たりし事。北条役帳に見えたり。永禄の頃は。足柄下郡。湯本村。早雲寺領。（役帳曰。早雲寺。138貫200文。中郡土屋惣領分。）及び神田次郎右衛門。（曰。2貫文中郡土屋寺分。）石巻正寿（曰。50貫文。中郡土屋庶子分。）等知行す。

（ 中略 ）

今地頭柳沢伊三郎（200石の地を。当所寺分にて賜りし事。寛永譜に見る。）

（ 中略 ）

波多野道（幅9尺。）梅沢道（幅4尺。）曾屋道（幅6尺。梅沢道の岐路なり。）

小田原道（幅6尺）の4路係る。江戸より19里。民戸189。東西31町。南北25町余。（東上吉沢。南金目2村。西足柄上郡。井ノ口。本郡下大槻2村。南足柄上郡。井ノ口。淘綾上郡。黒岩。西の久保。一色。本郡上吉沢等5村。北金目川を境。南金目。下大槻2村）検地は。寛文11年。（窪田氏采地。）延寶3年。（横山長谷川2氏采地）寛保元年。（長谷川氏采地）等に糺せり。又寛文5年。成瀬五左衛門重治新墾の畑を糺せり。

高札場七

小 名 ・寺分・庶子分・惣領分

山 ・所々に在。大久保山。池田山。向山。ふじ山。入山。小芹沢山。鷺坂山。等の字あり。皆小山なり。

坂 三 ・鷺坂。（登3町。）関口坂。（登1町。下同。）長坂と呼ぶ。

金目川 ・北方村境を流る。（幅18間より25間に至る。）堤。（高5尺許）あり。

座禪川 ・坤方。山々より湧出ずる。数条の水合て。中入沢。（幅2間。）と唱え。夫より下流に至て。此三名あり。南金目村境にして。金目川に合す。

三笠川 ・南方の山間に涌出し。村内にて座禪川に合す。（幅1間。）

熊野社 ・村の鎮守なり。神祇木像。本地仏十一面観音。例祭9月29日。天正19年。社領5石を寄付せられ。御朱印を賜う。元和4年9月。修造の棟札あり。神木の杉。（周一丈二尺。）あり。

別当持宝院 末社 十二社権現・第六天

ネノ

子神社 ・村民持。下同。

ハクサン

白山社

第六天社二・一は村民持。・一は天宗院持。

若宮八幡社・土屋宗遠が再興せし社なりと言伝う。村民持。下同。

木舟明神社・是も宗遠の再興なりと言う。

天王社 二・一は天宗院持。・一は芳盛寺持。

愛宕社 ・天宗院持。下同。

神明社

芳盛寺 ・土屋山無量寿院と号す。古義真言宗。（紀州高野山。無量寿院末。）相豆武三州の檀林所なり。古は阿弥陀寺と号せしを。応永年間。中興長覚の時。今の号に改む。開山退耕行勇。（足柄下郡酒匂村の産。仁治2年7月5日。鎌倉葛西谷。東勝寺に於て卒。79才。普応国師と諡す。其伝人物の部に詳なり。）中興長覚。（羽州の人。出羽法師と号す。応永23年11月15日。高野山無量寿院に於て卒。）重興志玉。（後醍醐帝の皇子。宇津峰親王の子。圓總上人と号す。明朝に渡り。帰国して。寛正4年9月15日卒。）（以下略す）再中興。左学頭師山。（寛永16年7月17日。鎌倉郡手広村。青蓮寺にて卒。）開基土屋弥三郎宗遠。（建保元年8月5日卒。年9

0。法名阿弥陀寺殿空阿。)中興開基。足利氏満(応永5年11月4日逝。法名永安寺殿。)重興大森式部大輔芳盛。(小田原城主。康正元年3月5日卒。硯照院了眠浄正。)本尊弥陀。(恵心作。長三尺一寸六分。)又同像一軀を置。(厨子に。大森式部大輔芳盛入道再興と記せり。土屋宗遠が守護仏と言伝う。)

- ・稻荷社 ・水神社
- ・千駄堂 今本尊正観音。一駄を安す。あとは焼失せり。
- ・堂 観音地藏二駄を置。

地頭窪田氏墓四基。寛文5年。窪田又六郎正次。(法名大円道智。)元禄3年。又右衛門正俊(正次の子。法名心解徳翁。)等の墳墓にて。其余りは妻女の墓なり。

大乘院

- ・星光山弘宣寺と号す。天台宗。(武州入間郡仙波村。中院末)中興開山円海。(応永10年2月18日卒。)本尊弥陀。天正12年2月。末寺東光寺。(南矢名村。)寺領のことに依て。北条氏より文書を興う。(東光寺所蔵す。其文同寺条に注す。)19年。寺領10石の御朱院を賜う。
- ・鐘楼。延享2年の鑄鐘を掛る。
- ・三王社。庖瘡神社
- ・古碑一基。土屋弥三郎宗遠が。墓碑と言伝う。
- ・塔中金蔵院。客殿以下。大破せし故。本尊弥陀は。今本坊に安す。此餘大安寺。宝性院。阿弥陀院の。三寺在しが。今廃なり。

天宗院

- ・八沢山東円寺と号す。古は真言宗なり。正保4年天台宗に改め。(江戸浅草東光院末。)定円寺と号せしが。明る慶安元年。東叡山の免許を得て。今の山寺院号を称すと言う。(按ずるに。延宝7年2月。本寺より当寺へ興へし文書に。相州東円寺。当寺末寺に候間。自今以後。山号院号加え八沢山天宗院とあれば。此時より山院の号を唱えしなり。慶安元年と言うは誤なり。)開山真慶。(延宝6年11月8日卒。)開基は、地頭田沢久左衛門なり。(承応3年5月27日死。法名天宗院心誓了清安徹。)本尊三尊弥陀。
- ・薬師堂。
- ・地頭田沢氏墓碑5基。田沢久左衛門以下。分骨を納むと言う。(茶湯料として。新畑8反を寄付す。)

妙圓寺

- ・和光山醫王院と号す。(大乘院末。下4ヶ寺同。)
- 開山舜堯。(承応3年12月21日卒。)開基。月盛妙圓。(正保4年12月19日死。村民の祖水島五郎右衛門と言し者の母なり。)本尊弥陀。
- ・鍾楼。鍾は。元禄5年の鑄造なり。
- ・弁天社。社辺に岩屋。(入口2間。深5間余。)あり。内に蛇形の神軀。及伝教慈覚の像を安す。
- ・薬師堂。本尊は行基作と言う。(秘仏)水島五郎右衛門建立す。

- 正藏院 ・ 星峰山観音寺と号す。本尊弥陀。
 ・ 弁天社。第六天稻荷を合祀す。天王社。
 ・ 観音堂。如意輪観音。（行基作。長6寸。）を安す。
- 正福寺 ・ 木舟山薬王院と号す。本尊薬師。
- 宗憲寺 ・ 谷田山清泉院と号す。開山勝栄。（天正16年11月29日卒。）
 本尊弥陀。
- 持宝院 ・ 小熊野山福王寺と号す。本尊弥陀。
 ・ 山王社
- 阿弥陀堂 ・ 村民持。
- 薬師堂 ・ 芳盛寺持。
- 地藏堂 三・一は天宗院。 一は妙圓寺。（本尊行基作。） 一は持宝院持。
- 土屋弥三郎宗遠居蹟
 ・ 宗憲寺境内なりと言う。其辺の字に。下屋鋪。屋鋪内などの。唱あるのみ。
 遺形と覚しき所なし。
- 神事舞太夫。若杉兵部と称す。江戸浅草。田村八太夫配下なり。

